

2022年 国際シンポジウム  
ソーシャルワークと戦争  
～避難民支援をめぐる実践・教育のグローバル連携～

**強制避難～病理学的・健康生成論的な視点～**

**オリット・ナットマン＝シュワルツ博士**  
**イスラエル・サピア大学教授**  
**国際ソーシャルワーク学校連盟イスラエル代表理事**



# 強制避難

- 強制避難とは、国境変更、戦争、自然災害などにより、人びとが住み慣れた環境から新たな環境へと、不本意に移動することを言う。
- 避難民は、境遇を選択することもコントロールすることもできない（ Dekel & Tuval-Mashiach, 2010; Hall et al. 2008; Nuttman-Shwartz, 2008 ）。
- 移動は通常、住居、職場、ソーシャルライフなど生活環境の全面的な変化を伴い、それは当事者個人の精神・身体の健康に影響を及ぼす可能性がある（ Ryff and Essex, 1992 ）。
- したがって、強制避難は、広範な喪失感を伴う強制退去の経験であると認識され、また複雑なトラウマを引き起こす事象であると考えられている（ Dekel & Tuval-Mashiach, 2010; Hernandez & McGoldrick, 1998; Lee et al., 2021 ）。

# 強制避難： 病理学からみた（ネガティブな）視点


研究結果は、強制避難に対する感情面・心理面のさまざまな反応を明らかにしている。これには、苦痛、悲嘆、憤り、不安、適応困難、抑うつ、結婚・家庭生活の問題、業績・能力についての自信喪失、先行き不透明感などが含まれる（Brown and Perkins 1992; David et al. 1996; Nuttman-Shwartz et al., 2010）。

# 強制避難： 健康生成論からみた（ポジティブな）視点

- 健康生成論に基づく、強制避難に関する小研究—ポジティブなアプローチ（Galilli & Sagy, 2010）。
- このアプローチは、新しい困難な状況に対処するうえで個人・社会が持つリソースを強調する。
- このアプローチはまた、困難な状況においてさえも個人・環境が機能し、危険が去ったときに日常へと、元の生活へと戻る能力を重視する（Sagy, 2015）。
- 研究結果が明らかにしたところによると、大多数の人びとは困難で極端なトラウマ惹起事象にさらされても抵抗力、回復力、成長を示す（Bonanno et al., 2015; Gatt et al., 2020; Masten, 2021; Nuttman-Shwartz, 2019）。

# ソーシャルワークの役割：ブロンフェンブレンナーの生態学的システム論

マクロ：グローバルおよびローカルな政策を変更し、平和を推進（IASSW人材・社会正義委員会）



メゾ：受け入れ側コミュニティとの協働



ミクロ：避難民・難民との協働

# ソーシャルワークの役割 (マクロおよびメソレベル)

- グローバルアジェンダに基づき、ソーシャルワークは、避難民、移民、亡命希望者を含む抑圧された脆弱な人びとが必要とするものを提供するうえで、重要な役割を果たすべきである（Becerra, 2016）。
- ソーシャルワーカーは、平等、正義、連帯を推進する政策変更を提唱すべきである。
- コミュニティ開発ワーカーは、地元住民と避難者が帰属感・一体感を連携して醸成できる心地よく安全で包摂的な地域・コミュニティを形成する必要がある（Drolet et al., 2018; Nuttman-Shwartz & Shinar-Levanon, 2019）。

# ソーシャルワークの役割 (ミクロ・レベル)

急性および長期的なトラウマ反応を評価し、トラウマ、悲嘆、喪失を経験した避難民の苦悩を軽減して、自分が抱える問題に取り組む回復力・能力を向上させるようにする。

# 实践例：1





# グループアートによる癒し： Bronfenbrennerの生態学的システム理論

- 10～11歳の子ども10名を対象とする3つのセッション
  - (1) メゾ・システム：地域モデルを作る。社会的なつながりを強化し、新たな環境と相互関係へのなじみを高めることを目的とする。
  - (2) ミクロ・システム：個人の領域（自分の部屋）を作る。個人の（プライベートな）「安全な場所」を見つけること、自らのアイデンティティを強化することを目的とする。
  - (3) トラウマワーク：過去、現在、将来の家を描く。継続性の形成を目的とする。

# 実践例：2



# 避難民専門家を育てる： STAIRトラウマ教育

## Step 1

- ストレス管理
- 感情との関連付け
- 対処スキル：呼吸訓練など

## Step 2

- 苦痛感の認定と整理
- 対処法：苦痛の身体面への現れ

## Step 3

- 感情面の健康管理
- リラクゼーション訓練

# 避難民専門家を育てる： STAIRトラウマ教育（2）

## Step 4

- 前向きに考え、ポジティブに活動、行動すること
- 成果のマッピング
- リラックスした気分にする健全な情緒反応を管理

## Step 5

- ポジティブな考え方を強化
- リラックスした気分にする健全な情緒反応をマネジメントする

## Step 6

- 個人の持つスキルを発見・活用
- 何が役立つか？
- 将来に起こることを管理するために、これらのスキルをどう生かせるか？
- 他者を助けるために、これらのスキルをどう生かせるか？

# 重要なルールと原則

- 過去のトラウマへの言及を避ける。
- 身体化反応は行動反応によく見られることが判明しており、身体化反応への注目が必須。
- （移民たちの）ローカルな文化言語への翻訳（文化面のトラウマ、関連するイメージ）。
- 詩、ダンス、動作、公開討議、知識共有を活用するセミプロ的な介入。

# まとめと結論

- ソーシャルワーカーは、避難民の自己決定とエンパワーメントを推奨し、彼ら自身のリーダーシップを促進できるようにする必要がある（Trevithick, 2012）。
- ソーシャルワーカーは、個人のトラウマと国際的な人権の両方を反映した文化横断的意味合いの関与を採用する必要がある（Nelson et al., 2014; Nickerson et al., 2017）。
- 差別、過激化、社会的格差・憎悪を最小化するための試みとして、現地の人びとと避難民コミュニティとの間の社会障壁を打破することを目的とするプログラムを開発する必要がある（Nuttman-Shwartz & Shinar-Levanon, 2019）。
- ソーシャルワーク教育者は、ソーシャルワーカーが避難民と協働し、避難民は戦争が終わったときには祖国に帰還したくなるだろうと考えるよう教育するプログラムを開発する必要がある（Nuttman-Shwartz & Shinar-Levanon, 2019）。

# ありがとうございました

[orits@sapir.ac.il](mailto:orits@sapir.ac.il)

